

カリキュラム区分		2カリ		シラバス区分		学部生		
科目区分	科目コード	履修時期		開講学科	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
専門科目	427	3年	前期	臨床検査学科	必修	微生物学実習 Practice in Microbiology	45	1
担当教員								
美間 健彦	藤井 萌							
関連するDPキーワード（看護学科）								
	① 幅広い視野と豊かな感性を身につけ、人々の権利や意思を尊重した倫理的な看護が実践できる。							
	② 他者との関係性を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を身につけている。							
	③ 地域で生活する複雑・多様な対象を、専門的知識に基づき総合的に理解するための基礎的能力を身につけている。							
	④ 看護の対象が、その人らしく生きられるように、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身につけている。							
	⑤ 地域社会及び保健・医療・福祉分野における多職種と連携・協働し、看護職の役割を拡大できる基礎的能力を身につけている。							
	⑥ 看護専門職として、主体的・創造的に継続学習に取り組む能力を身につけている。							
	⑦ グローバルな視点で看護実践を科学的に探究し、看護を発展させる基礎的能力を身につけている。							
関連するDPキーワード（臨床検査学科）								
	① 幅広い知識・教養をもとに、医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の権利や意思を尊重することができる。							
	○ ② 医学的に必要な専門知識・技術を備え、検査データを総合的に解析する力を身につけている。							
	○ ③ 多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力を身につけている。							
	○ ④ 医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野の発展・向上のために、自らの能力を高める自己教育力を身につけている。							
	⑤ 科学的思考力に基づき、医学検査の進歩・発展に対応できる学究的態度を身につけている。							
	⑥ 医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力を身につけている。							
授業目的								
微生物学および臨床微生物学で学んだ知識を基に、滅菌・消毒方法、培地の作製法や分離培養法、確認培養方法などの基本操作を修得する。さらに各種細菌のグラム染色法、同定方法および薬剤感受性試験方法とそれらの判定方法を修得する。								
到達目標（授業目標）								
	① 微生物を含む材料の取扱い方法を修得する。							
	② 対象物に応じた滅菌方法および消毒方法を修得する。							
	③ Gram染色法を修得する。							
	④ 培地の作製法や分離培養法、確認培養法などの基本操作を修得する。							
	⑤ 各種細菌の分離培地上の集落の観察方法および各種細菌の同定法を修得する。							
	⑥ 薬剤感受性試験法を修得する。							
回	授業計画（項目・内容与方法・担当者）							
1回	ガイダンス：消毒滅菌、染色、培地の作製、培養、菌検索について講義する。							
2回	微生物学検査（1）：微生物学検査の基本操作、染色法と顕微鏡検査、培養環境と培地について実習する。							
3回	微生物学検査（2）：検査材料別検査法、細菌の鑑別と同定検査、薬剤感受性検査法、薬剤耐性菌と検査法について実習する。							

4回	微生物学検査（3）：検査材料別検査法、細菌の鑑別と同定検査、薬剤感受性検査法、薬剤耐性菌と検査法について実習する。
5回	グラム陽性球菌の分離培養法（1）：Staphylococcus属、Streptococcus属、Enterococcus属などの分離培養を行う。
6回	グラム陽性球菌の分離培養法（2）：Staphylococcus属、Streptococcus属、Enterococcus属などの分離培養を行う。
7回	グラム陽性球菌の同定検査法（1）：Staphylococcus属、Streptococcus属、Enterococcus属などの同定検査と薬剤感受性試験を行う。
8回	グラム陽性球菌の同定検査法（2）：Staphylococcus属、Streptococcus属、Enterococcus属などの同定検査と薬剤感受性試験を行う。
9回	グラム陽性球菌の検査結果判定（1）：Staphylococcus属、Streptococcus属、Enterococcus属などの同定検査と薬剤感受性試験の結果を判定する。
10回	グラム陽性球菌の検査結果判定（2）：Staphylococcus属、Streptococcus属、Enterococcus属などの同定検査と薬剤感受性試験の結果を判定する。
11回	ブドウ糖発酵グラム陰性桿菌の分離培養法（1）：腸内細菌科、Vibrio属、Haemophilus属などの分離培養を行う。
12回	ブドウ糖発酵グラム陰性桿菌の分離培養法（2）：腸内細菌科、Vibrio属、Haemophilus属などの分離培養を行う。
13回	ブドウ糖発酵グラム陰性桿菌の同定検査法（1）：腸内細菌科、Vibrio属、Haemophilus属などの同定検査と薬剤感受性試験を行う。
14回	ブドウ糖発酵グラム陰性桿菌の同定検査法（2）：腸内細菌科、Vibrio属、Haemophilus属などの同定検査と薬剤感受性試験を行う。
15回	ブドウ糖発酵グラム陰性桿菌の検査結果判定（1）：腸内細菌科、Vibrio属、Haemophilus属などの同定検査と薬剤感受性試験の結果を判定する。
16回	ブドウ糖発酵グラム陰性桿菌の検査結果判定（2）：腸内細菌科、Vibrio属、Haemophilus属などの同定検査と薬剤感受性試験の結果を判定する。
17回	ブドウ糖非発酵グラム陰性桿菌・嫌気性菌の分離培養法（1）：Pseudomonas属、Bacteroides属などの分離培養を行う。
18回	ブドウ糖非発酵グラム陰性桿菌・嫌気性菌の分離培養法（2）：Pseudomonas属、Bacteroides属などの分離培養を行う。
19回	ブドウ糖非発酵グラム陰性桿菌・嫌気性菌の同定検査法（1）：Pseudomonas属、Bacteroides属などの同定検査と薬剤感受性試験を行う。
20回	ブドウ糖非発酵グラム陰性桿菌・嫌気性菌の同定検査法（2）：Pseudomonas属、Bacteroides属などの同定検査と薬剤感受性試験を行う。
21回	ブドウ糖非発酵グラム陰性桿菌・嫌気性菌の検査結果判定（1）：Pseudomonas属、Bacteroides属などの同定検査と薬剤感受性試験の結果を判定する。
22回	ブドウ糖非発酵グラム陰性桿菌・嫌気性菌の検査結果判定（2）：Pseudomonas属、Bacteroides属などの同定検査と薬剤感受性試験の結果を判定する。
23回	まとめ：実習のまとめを行い、各種細菌の同定法および薬剤感受性試験についてディスカッションを行う。
24回	
25回	
26回	
27回	
28回	
29回	
30回	

成績評価方法及び基準

筆記試験（50%）と実習ノート（50%）で評価する。トータル60点以上を合格とする。

教科書	微生物学実習書を配布する。 JAMT技術教本シリーズ「臨床微生物検査技術教本」（丸善出版）
参考図書等	森田耕司 編「微生物検査学 実習書」（医歯薬出版株式会社）

授業時間外の学習について（授業準備のための指示）

微生物学で配布したプリントまたは教科書等を参考に復習する。次回の項目について微生物学実習書及び臨床微生物検査技術教本等を参考に予習する。

関連科目

前科目	424	微生物学	425	臨床微生物学Ⅰ	426	臨床微生物学Ⅱ	444	臨地実習Ⅰ		
後科目	428	臨床微生物学実習	442	院内感染管理学	445	臨地実習Ⅱ	446	臨地実習Ⅲ	447	医学検査診断学Ⅰ

実務家教員

